



### 一番大事なことは「ゆっくゆっく」

119番通報をされる方は、早く救急車が来てほしいという気持ちから、慌ててしまうものですが、出動の際には、まず場所を特定することが必要となります。そのため、ゆっくゆっくと落ち着いて係員の問い掛けに答えることが重要です。流れについては左図をご覧ください。

### 救急車のサイレンについて

119番通報の際に、サイレンを鳴りながら来てほしいという願いがあります。救急車は安全かつ迅速に現場に到着

できるように赤色灯をつけ、サイレンを鳴らして走行するように法律で義務付けられていますので、ご理解ください。

### 通報した後は

119番通報後は、救急車が到着するまで現場においてサイレンが聞こえたら手を振って合図してください。特に携帯電話での通報では現場から離れてしまうと、場所の特定に時間がかかり、最寄りの場所からの救急車の出動ができなくなってしまう場合があります。

## 救急要請の流れ

知って安心



119番、火事ですか？  
救急ですか？

救急です



住所はどこですか？

〇〇市〇丁目  
〇番地です

どうしましたか？

父親が、胸の痛みを  
訴えて倒れました

おいくつの方ですか？

65歳です

あなたの名前と連絡  
先を教えてください

私の名前は〇山口男です。  
電話番号は…

**1** 119番に通報する。  
慌てずゆっくりと答える

**2** 救急であることを告げる

119番通報したら、まず「救急です」と伝えてください。

**3** 救急車に来てほしい住所を伝える

住所は、必ず、市町村名から伝えてください。住所が分からないときは、近くの大きな建物、交差点など目印になるものを伝えてください。

**4** 具合の悪い方の症状を伝える

最初に、誰が、どのようにして、どうなったと簡潔に伝えてください。また、分かる範囲で意識、呼吸の有無などを伝えてください。

**5** 具合の悪い方の年齢を伝える

具合の悪い方の年齢を伝えてください。分からないときは、「60代」のように、おおよそ構いませんので伝えてください。

**6** あなたのお名前と連絡先を伝える

あなたのお名前と119番通報後も連絡可能な電話番号を伝えてください。場所が不明なときなどに、問い合わせることがあります。

## 増え続ける救急要請に 応えていくために

本市で救急業務が開始されたのは、昭和37年になります。以来、救急車の出動件数は、年を追うごとに増え続けています。それは同時に、数多くの命が救われてきたともいえます。24時間体制でいつでも駆け付ける救急車は「安心」というまちの財産といっても過言ではありません。

しかし、残念ながら最近では、意図的なタクシー代わりとしての利用などの安易な要請が増えているという悲しい現実があります。緊急性の低い電話に追われているその間に、1分1秒を争う人が、救急車を待っているかもしれません。

救急車の適正利用のためにも、119番通報をするかどうか迷ったときには、かかりつけの病院や、病院が開いていない時間であれば夜間・休日急病センター※へ一度問い合わせてみてください。



わたなべ いさお  
消防長 渡部 勲

今後、さらに進む高齢化社会の中で、救急車の出動件数は今以上に増えると考えられます。4月からは人口規模の基準の変更に伴い、新開町に1台(平日8時45分〜17時15分の暫定的な対応)を増台します。これにより、市内全体で等間隔に救急車の配置が実現され、増え続ける救急要請への迅速な対応が可能となります。救急車の適正利用について、市民の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、今後とも皆さまの大切な命を守っていただけるよう消防職員一丸となって任務に取り組んでまいります。

※夜間・休日急病センターの電話番号などは10ページの健康ガイドをご覧ください